

授業科目 小児発達保健論

【担当教員名】		対象学年	2	対象学科	看護
岩田 みどり		開講時期	後期	必修・選択	必修
		単位数	1	時間数	15
【概要・一般目標：G10】 本科目では、健康問題を持つ子どもと家族の看護を、3つの事例を用いて小児看護学に必要なアセスメントの能力を身につける。学習方法としては、PBL (Problem-Based Learning) を用い、グループ単位で事例に必要な看護を考える。小児看護学の文献活用方法やグループ討論のスキルを身につける。グループ学習では、チューターの教員が参加し、グループの学習をサポートする。(尚、小児発達保健論の、子どもの権利、関連法規、小児保健対策、予防接種などは、小児看護学に含めて3年次に学習する。)					
【学習目標・行動目標：SBO】 1) 子どもの健康問題と治療の経過を説明する。 2) 子どもと家族の発達の特徴を説明する。 3) 身体的・心理社会的両面から看護問題を討議する。 4) 看護問題の根拠を討議する。 5) 事例に必要な看護を討議する。 6) 学習過程を整理し、学習できたこと、残された課題を表現する。 7) グループ学習に主体的に参加・協力する。					
回数	授業計画・学習の主題			SBO番号	学習方法・学習課題備考・担当教員
1	課題シートから、学習項目を抽出する。5回の学習計画を立案し、学習目標を決めておく。課題1：3歳、川崎病、課題2：14歳、白血病、課題3：幼児期、喘息				講義
2	チューターなし、文献調べ、プレゼンテーションの資料(A3一枚程度)を準備する。				
3	各メンバーが調べた学習項目をプレゼンテーションし、課題シートの情報をアセスメントし看護問題・ニーズを抽出する。インターネット情報のみの資料は認めない。				
4	チューターなし、事例の看護問題をアセスメントする。合同発表会の資料を作成する。				
5	他のグループに対し事例の看護問題・ニーズを説明し、アセスメントに対する評価を行う。また複数の事例から小児看護学の看護問題の特徴を学ぶ機会とする。				
6	チューターなし、ポートフォリオに学習過程をまとめ、今後の自己の学習課題を明確にする。				
7	6回目の自己学習を含めてすべての過程を一冊のノートに整理し、ポートフォリオシートに事例から学んだことをまとめ担当したチューターに提出する。				
8	まとめ 3疾患の病態と看護について説明する。担当した疾患に関する知識の確認のため、ミニテストをする。				
【使用図書】		<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>
教科書 (必ず購入する書籍)					
参考書					
その他の資料					
【評価方法】 最終提出ノート60%+PBL学習態度評価20%+ミニテスト20%		【履修上の留意点】 開始のときに詳細なオリエンテーションをする。1グループにチューター(小児看護学の教員4名)が1名担当者となり、チューターは学習態度評価を担当する。			